

京都と当院細胞診教育セミナーの現状

細胞検査士の育成と問題点

◎林 孝俊¹⁾公益社団法人 京都保健会 京都民医連中央病院¹⁾

【はじめに】

日本臨床細胞学会認定細胞検査士の資格取得を目指す場合、実務経験を積みながら、先輩からの指導や施設内勉強会、技師会・細胞学会の研修会に参加して学習し受験するという形と学会認定の「養成所」に入所するという形だったが、近年それに加えて、大学や大学院において細胞診教育を行い、卒業時に資格取得させる体制もできている。

一方で細胞検査士の働く現状を見ると、病理部門のみの施設や独立している医療機関ばかりではなく、臨床検査技師として就職した後、ローテーションによって病理部門に配属になり細胞検査士を目指すことは珍しくない。仕事が終わってから学習できる環境は、依然として必要であると考えている。

当院細胞診教育セミナー受講生も、すでに検査部門に就職している中で、病理部門に配属され資格取得を目指す。または、将来病理部門への配属を希望して、先に資格取得を目指す方々で構成されている。

【沿革】

当院が実施している「京都民医連中央病院細胞診教育セミナー」は今年 35 回目を迎える。

30 数年前、細胞検査士は全国的にも少なく、現在では 200 人を超える京都でも細胞検査士は少数であった。

当時何とか細胞検査士を養成しようと有志による勉強会「木曜会」が始まった。その後京都民医連病理センター（現京都民医連中央病院 病理技術課）が運営することになり、施設の移転などに伴い、開催場所を変更しながら、現在に至っている。

【カリキュラム】

4 月～12 月の平日（月、木）18：30～22：00 年間約 60 回（約 200 時間）2～3 月に募集し選考の上定員 15 名で運営し、一次試験発表後定員に余裕があれば、二次募集することもある。

【講師】

当院スタッフ以外に、卒業生を中心として、京都市内ほぼすべての病理部門を持つ医療機関と、滋賀県、大阪府からも依頼している。このことにより受講生は多数の施設の標本を鏡検し、多数の講師の指導を受ける。これは幅広い知識を得るとともに、「多様な判断基準」「妥当な判定」を学習できる機会となっている。

【若手検査士育成】

中堅・ベテランとは別に合格後年数の浅い方にも講師を依頼している。これは受講生にとっては鮮度の高い試験対策となる一方、新米講師にとっては、自分が勉強していたときとは違った「教えることの難しさ」に直面する。受講生にとって適切な難易度かどうか？など、準備に多くの時間とエネルギーを費やし、合格後の非常に貴重な学習経験の機会になっており、若手検査士育成に貢献していると考えている。

【おわりに】

今回、京都府の状況として、京都府臨床検査技師会、京都細胞学会の養成・育成活動とともに、当院セミナーの概要について報告する。

連絡先：京都民医連中央病院 病理技術課

電話：075-822-1373